

県立相良高等学校

「行きたい学校づくり」推進事業

【テーマ名】

令和 6 年 度 年 間 報 告

1 <成果指標と実績>

<成果指標と実績>					
成果指標	R 6 当初 初期値	R 8 末 目標値	R 6 年 実績	R 7 年 実績	R 8 年 実績
①授業内容に興味があつて学校を選択した生徒の割合 (%)	46.0%	60.0%	50.4%	%	%
②(授業以外の) 指導内容に興味があつて学校を選択した生徒の割合 (%)	30.1%	60.0%	74.0%	%	%
③志願倍率	普通 1.01 商業 0.95	普通 1.03 商業 1.03	普通 1.09 商業 1.03		

2 <年間の取組報告>

(1) 組織編成

学校全体で取組む事業として、「総務・庶務」「授業改善」「環境整備」「調査・報告」の役割を全教職員で分担し、テーマ及び研究の方向性を共有しながらプロジェクトを進行した。必要な打ち合わせが適宜行われており、PDCA サイクルで、計画の見直し・修正を行いながら、教職員が主体的に取組んでいる。

(2) 視察の実施

研究テーマを踏まえて、教員が主体的に視察計画を立案し、全 9 校(延べ 26 人)の視察を実施した。視察をとおして、動画撮影に必要な機材や撮影のポイントを経験則から学ぶことができた。また、生徒が動画を視聴するような仕掛け、動画を見る必然性が重要であることを再確認した。特に、学力が一定レベル以上にある生徒は、既存の学習動画で理解を進めることができるが、ある層においては、既存の動画教材では理解が進まない事例の報告を受けた。この



ことは、外部人材を招いた動画作成研修に活かした。さらに、学び直しの課題を抱える視察先からは、家庭学習習慣の定着、基礎学力の向上に向けて、学校独自に生徒の自己肯定感を高める取組みを研修した。視察後は、先行事例の取組みを検証し、本校の生徒に合わせた仕組み作りを事業計画に組み入れた。

なお、県外視察は、報告の場だけでなく職員室の雑談でも話題にされるなど、県外の取組みを知る良い機会となるとともに、本事業の研究にとどまらず、今後教員として取組むべき方向性を、中・長期的な視点で、それぞれが考えるきっかけにもなった。

(3) 動画作成研修

地域の専門人材を活用し、生徒が視聴したいと思う動画撮影のポイントを実践的に学んだ。地域で映画撮影や YouTube 等の配信を行っている企業に協力をいただいた。全教員参加のもと、合計 3 回の研修会を実施した。その都度に課題として作成された動画を確認すると、教員が主体的に取組んでいる様子が確認できた。動画撮影のレベルも確実に向上しており、本格的な撮影開始に向けて準備が整ってきた。

(4) 環境整備

撮影機材の調達など、環境整備が遅れている。視察の成果を機材調達に反映したことが大きく影響しているが、本事業の実施が遅れたことや、契約条件の問題、物価高騰等により計画の見直しが繰り返された。

年度内の撮影試行を実施するため、環境整備を急いでいる。

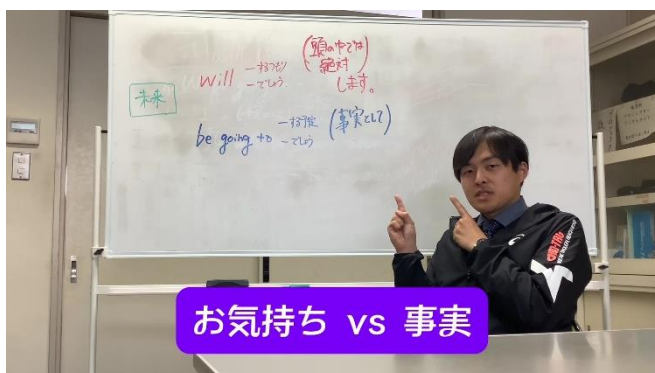
(5) 調査分析

教科書の単元に合わせて生徒のニーズを分析し、動画撮影に反映していく計画であったが、教員の主体的な提案により計画を調整した。次年度の本格実施に向けて、調査分析の準備を進めている。

3 <特徴的な取組>

(1) 全教職員が取組む事業として位置づけ、全校体制で臨んでいる。核になる教員を中心に、教員が主体的に取組む姿が見られ、事業計画の見直し、修正が積極的に行われている。

(2) 視察先の経験則を事業計画に取込んでいる。一定の学力層に対しては、教員が動画の中に入り込み、身振り手振りで説明する効果を学んだ。また、環境整備でもスイッチャーの利用やマイクの効果などを学んだ。また、動画を視聴させる必然性を仕掛ける事が重要であることを学び、研修計画に反映した。



(3) 地域人材の活用が進んだ。地域で、映像等の分野で実績のある企業と連携し、動画撮影のポイントを学ぶことができた。また、研修会ごとに出題される動画作成の課題は、教員に取組むべきこととして理解され、積極的な参加につながった。研修成果は、授業力の向上、ICT 活用力にもつながっている。

4 <成果と課題>

(1) 学校の魅力向上の実現について

本校の現状分析から、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着が課題である。本事業をととして、動画教材を活かした個別最適な学びの実現により、個々のペースで学習できる環境を整え、家庭学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎学力の確実な定着により、生徒の自己肯定感を高め、探究的な学びへ接続する計画である。本年度の取り組みをととして、本校の実状に合わせた方向性が定まってきた。

「地域を愛し 地域から愛され続ける」というコンセプトのもと、本校の活動を代表する「SCH活動」や「探究活動」「課題研究」による地域との連携が進んでいる。このような実践的な取り組みを活かし、卒業後の進路を実現するためにも基礎学力の向上が急務である。

本校に対する保護者・地域の期待も同様であり、本事業をととして、本校の魅力向上を図り、生徒募集につなげていきたいと考えている。

(2) 「ゴールイメージ」に向けての進捗

①令和6年度ゴールイメージについて

- ・組織編成については、核になる教員を中心に全教職員で取組む体制が整った。
- ・先進校の事例視察は充実したものとなった。成果をもとに、本校の実態に合わせた研究も進んだ。
- ・調査分析、アンケートについては、進捗が遅れている。全体計画の遅れと計画の見直しが影響した。
- ・環境整備が遅れているが、次年度の試行に向けて準備を進めている。
- ・動画作成研修をととして、教員が実際に動画撮影・編集を体験した。教科ごとに協力して課題を提出したが、教員が主体的に取組んでいる様子が確認でき、次年度につながるものと実感している。
- ・今年度の研究成果により「教科書の各単元・章に応じた予習・授業・復習の各場面で活用する動画教材の作成」から「単元テスト・考査に対応した動画」を作成し、視聴してよかったとの成功体験を積み、動画視聴の習慣へ導く計画に変更した。

②次年度ゴールイメージに向けて

- ・前年度の研究・開発に基づき、学びの個別最適化により、個々のペースによる学習展開と充実した家庭学習を通じて、授業内容の着実な理解を実現する。基礎学力の定着をととして、自己肯定感を高める取組を実施する。